

事業所名	グループホームきびの里 (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成18年11月28日
評価機関名	㈲東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 高等学校非常勤講師 資格・経験 看護師、社会福祉士、福祉住環境コーディネーター B:現職 障害者自立支援調査員 資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
<ul style="list-style-type: none"> ・JR庭瀬駅から徒歩で約10分、近くには県道も通っており、交通の利便性の良い場所に立地している。周辺には、犬養木堂記念館、RSKバラ園、吉備津神社などの名所・史跡が点在する。また、建物周囲には、中学校や大学・短大、住宅・商店、田んぼが在り、学校行事、お祭り、植物の爽りなど、四季折々の変化を肌で感じながら生活できる環境である。入居者は、地域の行事に参加したり、住民とのふれあいを通して、地域の中に溶け込んだ生活を送っている。 ・運営母体は医療法人であり、医療との連携を密にしている。2つの各ユニットに看護職を配置し、入居者の状態の変化を早期に発見し、早期に治療が開始できるよう、看護力を活かした取り組みをしている。状態が悪化した時の入院先の確保から、退院後の行き先までを視野に入れた支援を心がけており、入居者や家族の安心が得られている。 ・嚥下機能の低下予防や口腔ケアに配慮している。食事前には全員で嚥下体操を実施している。食事後、入居者は自主的に洗面所に向って歯磨きをされており、習慣化し定着していることがうかがえた。 ・開設当初からの職員が多いなど、職員の定着率が良いことは、入居者との馴染みの関係が保てるものを感じる。職員の身体状況や家庭環境の変化に応じては、法人内での異動など、仕事を続けられるような配慮も見られた。職員の休憩時間も、きちんと確保されていた。
特に改善の余地があると思われる点(記述)
<ul style="list-style-type: none"> ・入居者は、自分のペースでゆったりと過ごし、表情も穏やかであったが、時間帯によって職員動きが少しあわただしく感じた時があった。業務の時間配分や介護の方法について再検討されると、さらに良くなるのではないかとと思う。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・住み慣れた地で、のんびりした田舎生活が送れるように、ゆったり過ごせる時間と空間を大切にしたいと考えている。 ・「信頼」を理念に掲げ、入居者・家族・地域の方との信頼を築いていくことを心がけている。また、グループホームが生活の場ではあるが、別荘とか離れにしているような感覚で生活していただきたいと考えている。 ・入居希望者に多少医療の必要な部分が残っていても受け入れをし、病状の変化があったときには医療機関と連携をとりながら適切に対応できるような、医療も組み込まれたグループホームを目指している。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなと一緒にいたり、一人になったり、その時々で、入居者がいたい場所にいられるような場所が確保できていることが大切と考え、場づくりをしている。 ・一人ひとりが、生活体験を生かして、得意なことや好きなことに取り組み、自信ややりがいにつながるような支援を目指している。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にしたい整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者一人ひとりの経験や能力を生かすような取り組みがみられた。40年間和裁をしてこられたという入居者は「片目しか見えなけれど」と言いながらも、運動会で使うお手玉作りに黙々と挑戦していた。側では、昨日みんなで縫ったというはちまきに、アイロンかけをしている入居者もいた。 ・俳句、ぬりえ、ちぎり絵など、入居者の作品には、職員のちょっとしたアイデアで作品がさらに活かされるよう、飾り付けられていた。 ・「電話での入居者のことに対する問い合わせには応じない」、「来客時には入居者の了解を得てから」など、個人のプライバシーの保護のための管理体制がしっかりできていた。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヒヤリハット体験報告」では、多くの報告書が提出されており、事故予防に対する職員の認識が高いことがうかがえた。内容については、集計して法人全体で話し合われている。書式は、報告しやすく、また、データを集計しやすい工夫が見られた。 ・「事故報告書」があり、事故が発生したときには、リアルタイムで話し合いをし、再発に向けての防止策を検討している。また、その内容は、全員に伝わるよう、申し送りノートにも記載している。 ・地域の民生委員、入居者家族、市包括センター吉備サブセンター職員等が参加し、運営推進会議が行われ、活発な意見交換がなされた。家族からは「一緒に住んでいたときより、心に余裕ができ、とても優しい気持ちになれたような気がする。それが良かった。」との意見があり、職員の取り組みの成果が、家族の気持ちにも変化をもたらしていることが分かった。 		